



第11回

したいことを言ってみよう

～ want to を使った表現～

学習のポイント

- want to を使って、したいことが言える
- have to を使って、しなければならないことが言える

英語監修・執筆 鳥飼慎一郎

want to を使って、したいことが言える have to を使って、しなければならないことが言える

■コミュニケーション

お茶は今は広く日本中で飲まれ、海外にまでも広まっていますが、もともとは中国から来たものです。一般には、天台宗を開いた最澄がお茶の種を持ち帰って栽培したのが始まりだと言われています。それが鎌倉時代に入って禅宗と結びつき、精神修養の一環として広まりました。戦国時代に千利休が「茶道」として完成させました。このような日本文化を代表する茶道を実際に行い、英語で解説することは、日本文化を多くの海外の人に知ってもらういい機会になります。

日本文化を英語で紹介する場合に、どう訳すのが常に問題になります。一般に英語圏で **tea** というと紅茶のことを指します。茶道の「茶碗」を **tea cup** と訳すと、紅茶を飲むときの取っ手の付いた茶碗を連想するでしょう。「お茶会」も **tea party** と訳すとイメージがかなり違ってきます。**tea party** とは、午後人々が集まってケーキなどを食べながら紅茶を飲んで歓談する会のことを指すからです。「お点前頂戴いたします」は、あえて英語にすれば **I am going to drink the tea you made.** でしょうが、これは直訳であって、その背後にある文化的な要素は訳されていません。

文化に深く根差した事柄を外国語に訳そうとすると、どうしても表面的になったり、相手の文化に引っ張られた解釈になったりします。とはいえ、訳さないと通じないわけですので、そこは訳すほうも訳を聞くほうもあくまでも他言語による一般的な説明であるということをしっかりと認識することが大事になります。実際に目の前で茶道を実演することは、言葉の壁を超える大きな第一歩になります。

■単語や表現

茶道に関する言葉をいくつか取り上げてみましょう。

「お茶会」は **tea ceremony** がいいでしょう。**tea party** よりもその儀式性が強調されます。「お作法」は、**the manners of tea ceremony** です。**manner** とすると、「やり方、方法」という意味になりますが、**manners** とすることで「作法、行儀」という意味になります。**tea ceremony** と **a** や **the** が付いていないのは、具体的な一回一回のお茶会を指すのではなく、「茶道」と一般化して言っているからです。

「茶碗」ですが、**tea cup** よりも **tea bowl** の方がその形から考えるといい訳です。ただしあの茶碗の持つ芸術性は伝わりにくいでしょう。「お点前頂戴いたします」は訳すのではなくこのまま使い、直後に訳を添えるようにした方がいいでしょう。その意味するところを本当に伝えようとするれば、元々の言葉を使うしかありません。

kimono は日本語から英語になった言葉ですが、英語として使うのであれば **wear a kimono** と **a** を付ける必要があります。**wear a jacket** と言うときと同じ感覚になります。「着物姿の日本女性」は、**Japanese girls in kimono** がいいでしょう。

■英語の決まり

I use this bowl. → I want to use this bowl.

最初の文は「私はこの茶碗を使う」という意味ですが、「この茶碗を使いたい」と要望や希望を添えて言いたいときには、**want to** をこのように入れて表現します。以下にいくつか例を挙げておきます。この **want to** を使って「～したい」と言い添えてみましょう。

I visit Singapore. I want to visit Singapore. (シンガポールを訪れたい)

I pass the entrance exams. I want to pass the entrance exams.
(入学試験に合格したい)

I drive a sports car. I want to drive a sports car. (スポーツカーを運転したい)

want to を入れた文を質問する文に変えたいときには、これまでに学習したのと同じように、**do** を文の先頭に付けます。

Do you want to eat spaghetti for lunch? (お昼にスパゲッティを食べたいですか)

「～したくない」という打ち消しの文を作るときにもこれまで学習したのと同じように、**do not** を使います。

I do not eat spaghetti for lunch. (お昼にスパゲッティを食べたくありません)

I「私」でもなく **you**「相手」でもない1人の人について言うときには、**want** の後に **-s** を付けて **wants** とします。

Philip wants to see Japanese girls in kimono. (フィリップは着物姿の日本女性を見たい)
質問の文を作る場合には、**does** を文の先頭に置きます。

Does Ryo want to buy a new computer? (亮は新しいコンピュータを買いたいですか)
打ち消すときには、**does not** を使います。

Hina does not want to wash the dishes. (日梨は皿洗いをしたくない)

want to と同じように文に意味を添える表現に、**have to** (～しなければならない)、**like to** (～したい)、**need to** (～する必要がある)、**try to** (～しようとする) などがあります。

例えば、

I brush up my English. (私は自分の英語を上達させる)

という文があったとしましょう。この文に、上の4つの表現を添えて行ってみると以下ようになります。

I have to brush up my English. (私は自分の英語を上達させなければならない)

I like to brush up my English. (私は自分の英語を上達させるのが好きである)

I need to brush up my English. (私は自分の英語を上達させる必要がある)

I try to brush up my English. (私は自分の英語を上達させようとしている)

どの例も、I brush up my English.にいろいろな意味合いを付け加えています。

have to を I でもなければ you でもない 1 人に人について述べるときに使うと、

Naomi has to lose weight. (直美は体重を減らさなければならない)

のように、has to になりその発音も、ハストゥーとなるので注意しましょう。



column

アルファベットと発音 ⑪

T t

ティーと発音します。この音は、語の先頭に来ると強く発音され、息が強く口から出てきます。反対に語の最後に現れると、ほとんど聞こえないくらい弱く発音されます。例えば、tight という語では、最初の t は一気に息を強く出して発音しますが、2 番目の t は語の最後なので、弱く発音します。カタカナで書き表すと、タ、アイ (ト) といった感じです。

t と t が連続する want to や iced tea のような場合には、最初の t は発音されずに時間だけがその分の間過ぎるというようになります。これもカタカナで書けば、

want to ワン |…| トゥー

iced tea アイス |…| ティー

このようになるでしょう。この辺が英語の聞き取りの難しいところです。

